

死亡現認書

昭和二十二年七月十一日

本籍地		[Redacted]	
現住所		[Redacted]	
所屬部隊名 独立第六教育飛行團司令部			
官等級氏名		陸軍技術佐官 [Redacted]	
死亡年月日時	昭和二十二年九月三日 午五時 (確度 甲)		
死亡場所	小陸島ハタヤ市南方第五陸軍病院 (確度 甲)		
死亡區分	病	死亡事由	胃穿孔兼腸閉塞兼腸捻轉
遺骨、遺留品の状況	不詳	傷病名	(昭和二十二年七月四日)
昭和二十二年九月一日浦賀第一機務隊に交付			

右現認書

11-12

現認者

本籍地

現住所 同左

死歿者との関係 小隊長

所屬部隊 独立第百六教習飛行團司令部

元職官氏名印 陸軍主計中尉

記載上の注意

1. 確度は甲(確實)、乙(概ね確實)、丙(疑はしきもの)の區分で記入する
2. 死亡事由欄には何々貫通銃創、或は「マソリア」「チゾス」等の病名を記入する
3. 死歿者との関係は中、小隊長、分隊長、職友等記入する

11-13

# 死亡現認證明書

本籍地

所屬部隊(固有名)

徵集年 昭 13 年

前 陸軍航空隊 運輸部 (通稱號)

海 15358

役種 兵

和 航空

官等級

死亡前 軍 長

氏名

生年月日

留守擔當者

親柄 父 氏名

年月日時及區分

昭和二十一年十月十五日

時 分 戰死

場所

ジャワ島 木下川

傷(病)名

市民 襲撃 死亡

年月日時

昭和二十一年十月十五日 時 分

13-11

1915

名	戦死(病死)の状況	受傷(罹病)の状況	内地港湾出發 戦地到着年月日	勤務の概要

右の通り現認したことを証明す

昭和二十一年八月一日

本籍地

所屬部隊三七教育隊

官等級

陸軍 伍長氏名

1917年11月15日 查閱了共一名左道小形自動車修理

修理後時計修理に廻り美事(明)迄終り小形自動車

修理すも不明修理に便用(一)居大士民(信用)出(芳)九

調査(一)大(二)共(三)名(四)付(五)民(六)取(七)差(八)小(九)自(十)動(十一)車(十二)と(十三)試(十四)器

吳(水)上(云)出(水)ノ(カ)示(カ)長(舞)着( )付(反)攻(一)大(為)殺(二)水

征(付)何(此)カ(引)カ(小)行( )右(と)

人(付)短(氣)者( )あ( )右(此)カ( )ト( )應( )突( )ト( )い

現認證明書

4-14

本

所屬

官等

發病

受傷

病

死亡

死亡

死

捕

右須可

昭和

九月

九日

現認

法所

所屬部隊

官等

級氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

氏名

昭和二十年十月十四日

昭和二十年十月十四日

昭和二十年十月十四日

昭和二十年十月十四日

昭和二十年十月十四日



突然にして失禮申し下す

小生九日南の方より帰し四谷の者より

は同部阿の小生人事樹とてをりたかは我が相

当苦勞者存心にてりたか為任民の爲に下す

書付の上十日甲日夜我死即ち了た、もり

少報の上存心にてりたか、何れも還院

出来りたり存心にてりたか、何れも還院

遺留の件に就ても細い書付も一たいりたか

今日は是れにて失禮申し下す

支部

杉本園在病院外科 病棟七號

寫

※

係長

主任

取扱者

兵籍

整理  
但號  
口號

死亡現認證明書

※  
受付  
調製

年 年  
月 月  
日 日

8-12

所屬部隊  
國有独立九八大隊

通稱  
襲八八五九

本籍地

徵  
年 種  
後備  
種

步  
官死  
曹死

氏名

生年月日

死亡年月日

昭 20 年 12 月 6 日

死亡場所

ジャワ島  
マラン病院

死亡原因

戰傷死

傷病名

左右大腿部  
首貫銃創

現住所

本籍地に同じ

守者  
當  
留  
担

妻氏名

氏名

死亡者  
続柄

母

受傷年月日

20 年 10 月 20 日

受傷場所

ジャワ島  
シラバヤ村

入院年月日

20 年 10 月 20 日

入院場所

ジャワ島  
マラン病院

認定資料

昭和二十年十月二十日ジャワ島シラバヤ村(スラバヤ北方二十一村地矣)  
至ジャワ義勇軍第三大團兵營内に於て某國飛行機二機上降  
着せる時右足左足大腿部に重傷ジャワ島マラン病院に於て加療中  
昭和二十一年五月六日ジャワ島シラバヤ村に於て  
部隊を離れて退却す



遺骨状況 有

入元	隊者七	後	遺骨状況
16.7.15 修野呂集に依り歩兵三六	16.7.24 釜山に陸	16.7.26 独自に九八中隊編入	16.11.19 釜山出陣
16.11.27 高尾港に陸	17.2.1 伍長	17.5.1 軍曹	20.5.1 曹長

現住所

新編部隊

死亡者の関係

襲入八九九部隊

隊階級 准 氏名

見※所

一、印の箇所は儘部にて記入す  
 二、戦歴欄には入隊より戦死に至る詳細に記入のこと  
 三、戦死當時の状況は詳細に記入のこと  
 四、一部調製とす  
 五、本書送り先は



放資民生部

第一世話課現認係とす

陸・海・邦 死亡現認證明書

資 料 提 供 者		死 亡 現 認 者														
死 亡 知 照 方 法		遺留品の処 理	遺骨及び遺 骸の処理	元	諸	亡	死	発	発	区	本	開 戦 時 の 任 所 (在留地)	域	部	所	
現地で死す				(死亡事由 傷病名)	死亡場所	死亡日時	死亡区分	病場所	病時期	分	籍地		名	隊	属	称
事柄を詳しく知った				多傷状況不詳	スマトラ島ブキヤンギより7K	昭和20.12.10	戦病死			内						
死 亡 者 と の 関 係		容														
友人																
所 在 地	所 在 地	種 兵 種 役														
スラバヤ	スマトラ	陸軍														
日本人名	スラバヤ	六級														
姓 名	スラバヤ	名														
		年 月 日 生														
		女 男														
所 在 地		者 当 担 守 留														
		名 氏 所 在 地														
		続柄(弟)														
		死亡当時の状況及び参考資料														
		スマトラ島の治安維持に任ずる近 紅歩兵第5連隊に付しインド ネシア軍の武器弾薬等々の護送 を要求め、拒否されるや日本軍警 備隊、収束所等を龍安寺に 多敷の戦死者を孝にまつるも ある 厚生省援護局調査課														

裏面に以上の注意を見ておいて下さい。(※及び裏面の各欄は記載に及びませぬ)

人としての立場を論ずる

北支の明書

本籍地は [redacted] 陸軍衛生部長 [redacted]

右第 [redacted] 陸軍衛生部長 [redacted]

右第 [redacted] 陸軍衛生部長 [redacted]

三 當時の状況  
昭和 [redacted] 陸軍衛生部長 [redacted]

五 欄 (後領) 其の後消見なし 直に [redacted] 憲兵隊に  
於て暴動捜査 [redacted] 陸軍衛生部長 [redacted]

三 當時の治安状況

その [redacted] 全域に於て熾烈を極め特  
に急進分子に依り日本軍 [redacted] 物類を掠  
奪 [redacted] 目的とする日本人襲撃被害事件は随処に勃発

三 所見

本 [redacted] 急進分子の襲撃 [redacted] 目的を以  
て被害せらるるものであること確實に推定せらる。

右證明書

昭和二十六年十月十八日

現住所

[Redacted]

当時所属

「ノノ」島「心」心「島」島長

元

陸軍憲兵少佐

[Redacted]

邦・海・陸 死亡證明書

資 料 提 供 者		死 亡 者								死 亡 時 状 況		死 亡 時 状 況											
死 亡 者 について		遺 留 品 の 処 理	遺 骨 及 び 遺 骸 の 処 理	元 死 亡 事 由 ( 傷 病 名 )	諸 死 亡 場 所	死 亡 日 時	死 亡 区 分	発 病 場 所	発 病 時 期	区 分	本 籍 地	開 戦 時 の 住 所 ( 在 留 地 )	所 属 ( 所 轄 ) 部 隊 又 は 艦 隊 名	種 兵	種 役	死 亡 時 階 級 ( 兼 職 名 職 は 又 )	名	氏	年	月	日	生	性
現 地 人 員 通 知 あり。戦 役 と 関 連 した 死 体 引 取 現 認 する。					埋 葬	独 立 戦 隊 参 死 戦 死	ハン トン 市 ハ ル ガ イ ニ ム 市 場	昭 和 二 拾 年 拾 貳 月 貳 拾 六 日	*						固 第 二 野 戦 航 空 修 理 隊			上					
死 亡 者 関 係 者																							
現 住 所																							
所 属 部 隊 所 属 職 名																							
死 亡 時 状 況 及 び 参 考 資 料		昭 和 二 拾 年 拾 貳 月 貳 拾 六 日 夕 方 戦 役 と 関 連 した 戦 場 の 戦 死 者 である。マルガハイニム市に戦死し、戦死した者の埋葬は現地イスラムの儀式による。現住居はハン トン 市 ハ ル ガ イ ニ ム 市 場 埋 葬 場 所 ハ ン ト ン 市 ハ ル ガ イ ニ ム 市 民 墓 場 であり、埋葬は盛大である。																					
守 衛 担 当 者 名 氏		本 籍 地 に 全 然																					
統 柄 ( 母 )		統 柄 ( 母 )																					

在留者を見つけておいて下さい。(※及び裏面の各欄は記載に及びません)

ハリー島に関する調査要綱 吉野連調査部

一 本島を以てハリスノバツ島ロツクとも称稱し之にハリスノバツ島から西遊古と云ふ（生死不ぬ者調査に由る）

ハリスノバツ島からは西遊古の所なく、ロツクの中捕集  
 結核に集令する所ハリスノバツ島を考察し、その後、生死不ぬと  
 何うなるかの所なく、  
 シヤの名を以てハリスノバツ島に参入し、最近迄大東堂、破石など決意、  
 スノバツ島を以てハリスノバツ島に参入し、最近迄大東堂、破石など決意、  
 上陸地は隊ハリスノバツ島に参入し、最近迄大東堂、破石など決意、  
 一行五十名の内ハリスノバツ島に参入し、最近迄大東堂、破石など決意、  
 バリスノバツ島と考へし（原隊復帰の目的にて先登）

二 当時の西リスノバツ島の地名の氏名 私有 階梯、  
 当時集結途中に下が地区隊なる氏名、取名等  
 不明

三 ハリスノバツ島 襲撃隊は逮捕された者も、襲撃隊の氏名逮捕  
 捕後の状況（詳細） ハリスノバツ島から西遊古の所なく、

ハリスノバツ島の状況（詳細）  
 ハリスノバツ島の状況（詳細）  
 状況調査ハリスノバツ島上陸中、四八師田生兵が襲撃隊を三隊長（ハリスノバツ島）  
 少佐は南軍城名一行、目的はハリスノバツ島に参入し、最近迄大東堂、破石など決意、  
 襲撃隊はハリスノバツ島に参入し、最近迄大東堂、破石など決意、  
 襲撃隊はハリスノバツ島に参入し、最近迄大東堂、破石など決意、  
 襲撃隊はハリスノバツ島に参入し、最近迄大東堂、破石など決意、

ハリスノバツ島から西遊古の所なく、生死不ぬ者調査に由る）

子の喪失を以て死亡した 嘆きの声も、若し母を以て

ハ 死亡年月日 昭和三年一月九日頃

二 場所 ハリスノバツ島（ハリスノバツ島推定）

三 死亡原因の概 土人の賊匪に依り、負傷 身体が

四、推測の経緯等、私者一行襲撃隊後死亡したものと推測  
 する）

相掛

死後

◎ 裏面記載上の注意を見て書込んで下さい。

# 死亡現認(確認)証明書

※ ( ) 欄有日( ) 昭和 年 月 日  
 ※ ( ) 欄有官( )  
 ※ ( ) 欄有官( )

資 料 資 料 資 料		死 亡 者 の 資 料					現 留 守 住 所 者	本 籍 地	無 存 の 届	
法 方 た つ 知 と 亡 死	遺 留 品	元 諸 亡 死							隊 部 属 通	所 属 同 有
死 亡 日 時	死 亡 場 所	死 亡 日 時	傷 病 名	發 病 時	死 亡 區 分	死 亡 日 時	死 亡 場 所	死 亡 日 時	死 亡 場 所	死 亡 日 時
一月廿一日 失踪後 発見ス。	東海岸州グダバニ	昭和二十一年五月十日	グダバニ		自殺	昭和二十一年五月十日	東海岸州グダバニ	昭和二十一年五月十日	東海岸州グダバニ	昭和二十一年五月十日
敵隊に同行し、死亡。同行者アリ。	農園ニ									
隊部所属	所住現	死 亡 者 の 資 料					現 留 守 住 所 者	本 籍 地	無 存 の 届	
航空無線隊		死 亡 者 の 資 料							無 存 の 届	
隊部所属	所住現	死 亡 者 の 資 料					現 留 守 住 所 者	本 籍 地	無 存 の 届	
航空無線隊		死 亡 者 の 資 料							無 存 の 届	
隊部所属	所住現	死 亡 者 の 資 料					現 留 守 住 所 者	本 籍 地	無 存 の 届	
航空無線隊		死 亡 者 の 資 料							無 存 の 届	

終戦後、敗戦ヲ極度ニ悲觀シ、重大ナル 責任ヲ感じ 就中、  
 報ニ全クノ絶望ヲ感じ、  
 一月廿一日 失踪、翌一日午前十時、  
 二発ノ銃声アリ、附近ノブム林中ニ、  
 十四年式拳銃ニテ、腹部、頭部ニ各一弾ヲ射テ、自決セル 遺骸ニ遷入ス。

90-12

五

29

若原庄がき資料通帳

軍邦

A	B	C	D	E	F	G	H	I
自領人本人 との関係	陸軍の財産	陸軍 の 財産	陸軍 の 財産	陸軍 の 財産	陸軍 の 財産	陸軍 の 財産	陸軍 の 財産	陸軍 の 財産
	1946年5月19日	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産
	1946年5月19日	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産
	1946年5月19日	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産
	1946年5月19日	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産
	1946年5月19日	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産
	1946年5月19日	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産
	1946年5月19日	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産
	1946年5月19日	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産
	1946年5月19日	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産	陸軍の財産

1928